

総社市地域公共交通会議 会議録

日時：令和3年2月9日（火）午前10時00分～

場所：保健センター1階運動指導室・健康相談室

出席者：委員・専門員（別紙のとおり）

事務局：交通政策課 荒木・石川・宝垣，

協総合政策部長，政策調整課 前原，長寿介護課 林，土木課 目黒，

観光プロジェクト課 松久，教育総務課 浅野・岡

【開会】

出席者15名，過半数超え会議成立

・平松会長あいさつ

2. 協議事項

事務局説明「美袋～木戸線，美袋～槁線のバス路線廃止について・・・資料1」

委員：致し方ない。雪舟くんで代替できる。

委員：過去にはたくさんの人が乗っていたが今は極端に減っている。致し方ないという感じである。

委員：雪舟くんで代替できる。致し方ない。

委員：事務局の説明を聞くと当然と思う。むしろもう少し早くても良かったかもしれない。

会長：ほかに意見はあるか。

～意見なし～

会長：意見がないので，美袋～木戸線，美袋～槁線のバス路線廃止について承認することとしてよいか。

～意義なしの声あり～

会長：意義がないので，美袋～木戸線，美袋～槁線のバス路線廃止について承認することとする。

3. 報告事項

事務局説明「新型コロナ禍における実施事業・・・資料2」，「業績評価指標（総社市総合交通戦略）・・・資料3」

専門員：国道事務所は総社一宮バイパスの工事を行っている。現在，総社市総社～小寺までの約1.9kmの工事を進めている。開通目標として令和4年度を予定している。「南北方向整備予定路線の整備」については，この辺りと交通ネットワークをさらに充実させていただきたい。

専門員：総社市では立地適正化計画策定済である。引き続き街づくりについて取り組んでいただきたい。

専門員：新型コロナ禍における公共交通事業者支援として県では約2億円の支援をした。これに加え2月補正で約8億円の支援をする。具体的には乗合バスの事業者に対しバス車両1台あたり50万円を支援。新たに貸切バスの事業者にもバス車両1台あたり同額50万円の支援。タクシー事業者については車両1台あたり3万円の支援。地域鉄道の井原鉄道には2800万円の支援。2月の県議会で議決後に速やかに事業実施予定。来年度当初予算で公共交通の利用促進としてクーポン券発行の事業を

検討している。議決後に改めてお知らせをする。

専門員：現況値を見るとコロナの影響を大きく受けていると感じた。利用者も外出を控えていると思われる。安心して公共交通機関を利用していただくことが大事。資料2にあったように雪舟くんの車両内にセパレートシートを使っているように、事業者が使用している施設に空気清浄機を設置したり、安心して利用できる環境を作ることが大事。国土交通省の補助制度で感染防止対策に掛かる費用に対するメニューがあるので、市として検討していただきたい。

専門員：コロナ禍ということで人の移動が抑制されていることで利用客が減っている。とは言え非常に重要な役割を担っている公共交通を維持していくことで市として対応をしていただいているので感謝している。3次補正予算が成立して、利用者が安心して利用できる環境づくりを支援しているので、引き続き利用促進に努めていただきたい。

専門員：総社足守線の交通安全工事や一部バイパス工事を行って令和4年度あたりにはある程度形になってくと思う。そういったことが、雪舟くんの安全な運行や時間短縮に寄与するものと考えている。

一点、質問となるが、雪舟くんの予約お断り件数について、利用者が減るなかで約7件となっているが理由は何か。

事務局：4地区のうち東部地区と昭和地区のお断りが多い。状況としては「今日乗りたい」とか「今乗りたい」というケースでお断りが発生している。一週間前に予約をすると応援車両で増便も含めて必ず取り運行ルートを決めるが、そこに「急遽乗りたい」という予約に対応できず、1日7件程度のお断りが発生している。

専門員：交通安全の関係ですが、新型コロナの影響で、人身事故・物損事故ともに減少傾向にある。コロナ以前から年々減少傾向であったが、更に減少傾向となっている。しかし死亡事故は6件起きていて昨年より3件増となっている。総事故件数は減少しているので、この傾向を継続させるために国・県・市と連携して総社警察署として取り組んでいく。

委員：県タクシー協会総社支部では厳しい状況が続いている。10月11月あたりから盛り返してきたが、第3波が来て厳しくなっている。例年の70%くらいで推移している。市の雪舟くん応援車両の増便や、テイクアウトなどの支援はありがたい。テイクアウトは魅力発信室が行っているが、予定が3月末までと聞いているが、出来れば引き続きお願いしたい。また観光協会からも総社周遊観光タクシーでお世話になっている。第3波でGotoトラベルもなくなっているので利用がない。Gotoの復活や気温が暖かくなってくれば利用が見込めるので引き続きお願いしたい。先行きが不透明で厳しい状況が続いているので、市や観光協会に支援をお願いしたいと考えている。

委員：テイクアウト配送について質問だが、弁当は飲食店が市役所に持ってきて配送しているのか。メニューが決まっていて市役所にするのか。時間は決まっているのか。101台の実績だが、1日あたり何台なのか。私鉄労働組合にもタクシー部があるので参考にしたいので詳細を教えてください。

事務局：市役所魅力発信室が行っている。市内の飲食店でテイクアウト弁当を作ってもらえるところを募集し、毎週金曜日に30店舗ずつ2週間毎に入れ替えで約60店舗ある。その配達には11時頃にタクシーが行う。1日3台お願いして1台あたり50～60個で、店舗を10～15件回って市役所へ配達する。1台あたり6,300円をお願いすると、弁当1食あたり100円になるので、職員で100円を上乗せして配達してもらっている。それで飲食店とタクシー事業者の支援としている。

委員：バス事業に対しては、国・県・市から多大なる支援をいただき、非常に助かっている状況。路線バスについては各社、軒並み利用者が3～4割減少が続いている。これ以上続くと路線の存続が厳し

くなるので、更なる支援をお願いしたい。

委員：井原線スーパーホリデーパス利用客にレンタサイクル無料の試みをした。コロナ禍で様々な利用促進に向けた取り組みを進めている。その中でも総社駅と清音駅の利用客を拡大することで、このレンタサイクルもその一環である。9月12日～11月29日で限られていたが43名の利用であった。神辺駅からの乗車が約半数あり、総社駅まで乗車していただいた。清音駅からの乗車については井原や矢掛で観光して、総社駅まで戻ってレンタサイクルを利用したと考えられる。これも一つのテストマーケティングと考えられるので、分析しながら利用客の確保をしていきたい。観光客の獲得が重要だと考えている中で、地域住民の足として持続的な運営を続けていきたいと考えている。

委員：JRでもコロナの影響で乗車数が減少している。11月頃までは上向きの傾向だったが第3波の影響で減少している。生活様式が新しくなっており、リモートワークの普及やウェブ会議が増えたりと利用者数が元通りに戻ることは難しいと考えている。今後は貨客混載や新しい取り組みを検討して、公共交通の維持に努めていきたいと考えている。

委員：利用者がコロナ禍で減少している中で、各事業者が企画を考えているが、知る機会がないので、SNSなどを活用して若い人たちにも宣伝できれば活用すると思うので、もっと宣伝をしていただければと思う。

委員：コロナ禍で全国的に利用客が2～3割減となっている。総社市でも利用が減ってきている中で、テイクアウトなど市職員が自ら下支えをしていたり、利用者回復の取り組みをしており、ありがたく思っている。一方で予約お断りが発生していることは根本的に何かあるのではないかと気になる。1日7件であると1年で約1,400件断っているのはあり得るのだろうかと思う。コロナもあるが、これは以前からあることなので、構造的な問題があり解決しないといけない。一旦離れた客が戻ってくることはない。2～3割利用客が減少しているので、これが定着しないように情報提供をしないといけない。情報提供がないので知りようがない。構造的な問題解決と情報提供とを両輪として活動をしていきたい。

委員：本来、令和2年度はスタートの年で計画を積極的に進めていきたいと考えていたが、コロナ禍という特殊な事情となってしまった。市としては交通戦略の基本理念である、暮らしやすい街の実現に向けて六つの目標の主旨を鑑みて、具体的に示した事業や進め方ではないが工夫を凝らして頑張っていたところである。コロナ禍であるからこそ協力できるところ、工夫できるところを話し合えたところも、今後計画を進めていく中で有意義な一年であったのではないかと感じている。この1～2年は改革ではなく維持という部分が大事になってくると思う。維持するなかで次に新たなことを展開していかなければ、一緒に取り組んでいる皆さまが維持できなくなると計画も前に進まないと思うので、支援をしながら、ご意見をいただきながら、市としてできることを取り組んでいきたい。

委員：乗りたくても乗れない交通弱者への対応については改革の方向で考えて欲しい。